

1,500年も、
お待たせしてすみません。

き し みなみ い せき
喜志南遺跡内の
う き が さ わ こ ふ ん
浮ヶ澤古墳出土

埴輪見学会

令和5年 5月7日(日)

観光交流施設 きらめきファクトリー

主催：富田林市教育委員会・富田林商工会



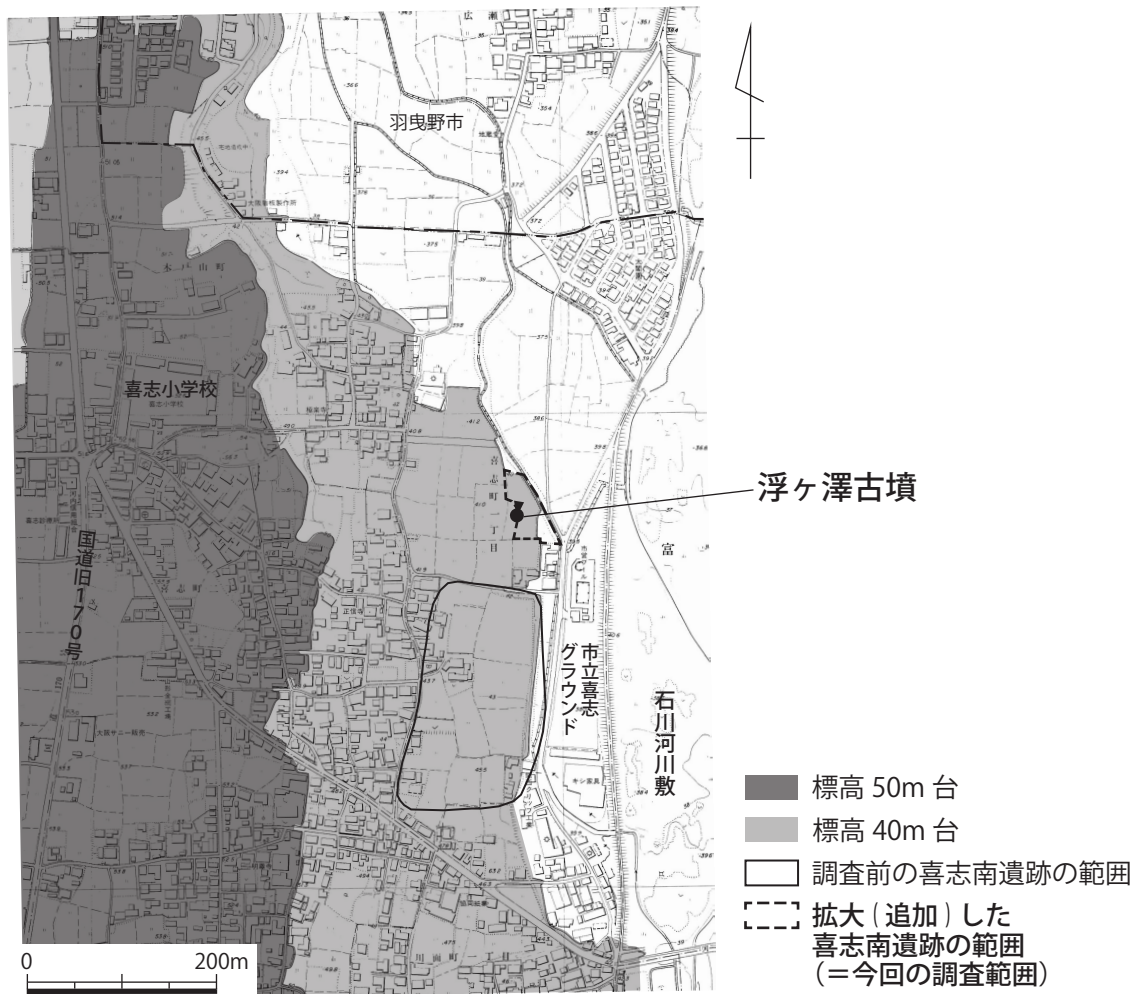


図1 喜志南遺跡および浮ヶ澤古墳の位置 (S=1/8,000)

※本来の地形を示すため、背景の地図は 1972 年時点のものを使用

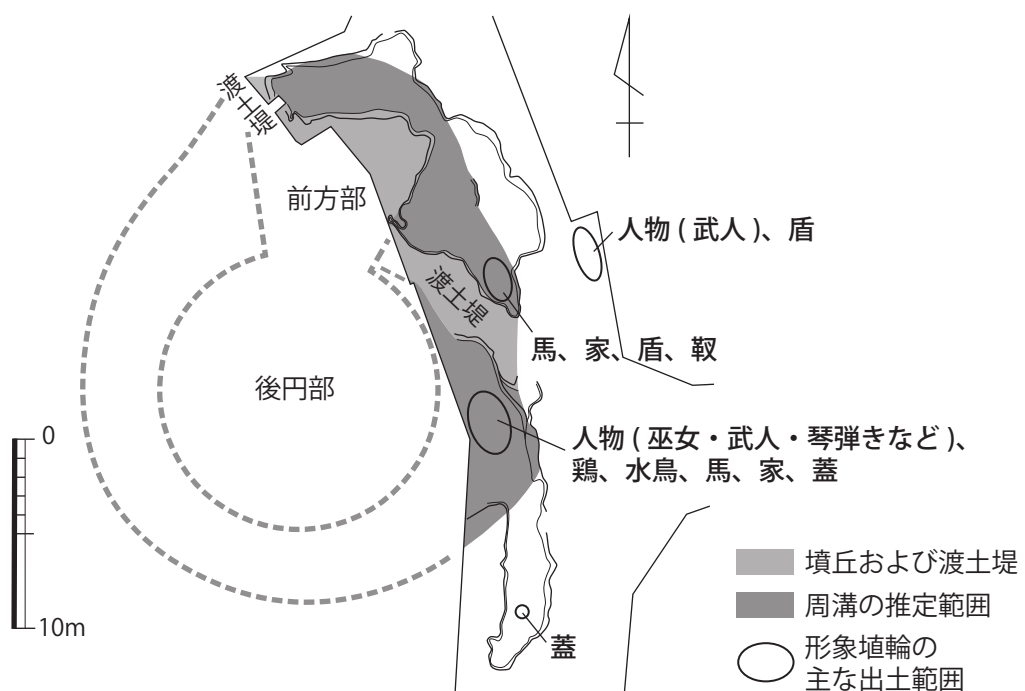


図2 浮ヶ澤古墳の復元案と形象埴輪の出土位置 (S=1/800)

調査成果の概要

1. 調査の経緯と経過

令和3（2021）年10月、喜志町一丁目地内の遺跡外において、宅地造成に先立ち試掘調査を行ったところ、遺跡の存在が明らかになりました。南側に近接する喜志南遺跡を飛び地状に範囲拡大する形で、当該地も喜志南遺跡として遺跡登録し、同年11月～令和4（2022）年1月、開発で保存することができない範囲の発掘調査を行いました。その結果、これまで知られていなかった古墳（埋没古墳）の存在が明らかになり、多量の埴輪が出土しました。その数は、整理コンテナで40箱以上にも及びます。

埴輪はほとんどが小片になっていたため、現地調査終了後、接合などの整理作業を進めてきました（※現在も継続中）。その結果、埴輪の内容等がおおむね判明しましたので、中間報告として公表します。

2. 古墳の状況

古墳は中世ごろに削平されたと考えられ、調査前の地表面には、その痕跡が全く残っていませんでした。発掘調査で、墳丘を浅く取り囲んでいた周溝（しゅうこう）の一部が見つかりました。古墳全体の4分の1以上は調査区外のため、正確には分かりませんが、周溝の形から墳長20m前後の前方後円墳と推定しています。周溝内では、2箇所で渡土堤（わたりどて：墳丘と周溝外側を結ぶ通路）が見つかりました。

古墳が造られた時期は、後述する埴輪や一緒に見つかった須恵器（すえき）などから総合的に判断して、5世紀末ごろと考えています。ただし、須恵器には時期の新しい一群もあり、6世紀前半に追加埋葬が行われた可能性もあります。

後円部に存在したとみられる埋葬施設は、墳丘自体が削平されていることに加え、今回の調査区外にあたるため不明です。ただし、周溝内から、石棺の一部の可能性のある加工された凝灰岩（ぎょうかいがん）の破片2点や、副葬品の可能性のある不明鉄製品2点が見つかっています。

古墳は小字名から「浮ヶ澤（うきがさわ）古墳」として遺跡登録する予定です。

3. 埴輪の出土状況

埴輪は、周溝内を埋めていた土と、墳丘が取り壊され堆積した土（元々は墳丘を形作っていた土）の中から、多量に出土しました。ほとんどが小片となっており、全体の形状が分からない状態で見つかりました。

円筒埴輪と朝顔形埴輪が多くを占めていますが、通常は出土することが少ない形象埴輪も、まとまって出土しています。形象埴輪は、くびれ部側の渡土堤付近の周溝外に並べられていたと推定しています。

4. 形象埴輪の詳細（※個体数は現時点での判明分です）

家形埴輪 入母屋造（いりもやづくり）が2個体あります。1個体は下屋根から壁にかけての部分が良好に復元でき、ほとんどが壁で囲まれた建物です。上部が平らになっており、別で作って焼いた上屋根をのせていたとみられます。もう1個体は掘立柱建物で、柱は線刻で装飾されており、直弧文（ちょっこもん）が崩れたものと考えられます。こちらの屋根には、堅魚木（かつおぎ）がのっていたようです。

器財埴輪 盾形は2個体あり、1個体は盾面全体の文様がほぼ分かる貴重な資料です。上と左右に鋸歯文（きょしもん）、下には直弧文が刻まれています。蓋（きぬがさ：貴人にさしかける傘）形は2個体あり、1個体は線刻で装飾した立飾（たちかざり）部、もう1個体は装飾が全くない笠部です。鞆（ゆぎ：背負う矢入れ具）形は1個体あり、線刻を施した飾板（かざりいた）と、鏃部（ぞくぶ：弓矢を線刻で表した部分）が見つかっています。

人物埴輪 6個体あり、顔の詳細は分かりませんが、鼻、線刻のある美豆良（みずら）、玉飾りを付けた首、腕、衣装などが見つかっています。手で坏（つき）を捧げもつ巫女（みこ）や、手に弓を持ち、胡籙（ころく：腰に付ける矢入れ具）を備えた武人などがあります。また、2本の粘土のひもを貼り付けた埴輪片があることが特筆されます。これが弦を表現したものであれば、箱形の琴となり、同一個体と思われる腕とともに琴を弾く人物と考えられ、近畿地方では数例（※堺市・野々井古墳群など）しかない貴重なものとなります。

動物埴輪 馬形は2個体あり、耳やたてがみ、尻尾（しっぽ）、脚のほか、馬具の鞍（くら）や鈴の部分が見つかっています。鳥形は鶏1個体と、水鳥とみられる1個体があり、前者は鶏冠（とさか）のある頭から首、後者は胴体から脚の部分が見つかっています。

4. 今回の調査意義

今回見つかった浮ヶ澤古墳は、古市古墳群まで3km程度と近く、同じ石川流域で川のすぐそばに位置します。古墳の被葬者を含む喜志地域の集団は、形象埴輪の製作や配置方法についての情報を、古市の王権から得ていたと考えられます。

さて、人物埴輪をはじめとする多量の埴輪群像は、真の継体天皇陵とされる高槻市・今城塚古墳の「埴輪祭祀場」が有名で、時期は浮ヶ澤古墳よりも新しい6世紀前半になります。それ以前の5世紀代の大王墓は、百舌鳥・古市古墳群にありますが、陵墓に指定されていることもあり、埴輪群像の実態は明らかになっていません。

浮ヶ澤古墳は墳丘規模こそ小さいものの、今回見つかった埴輪群には、大王墓のそれが簡略化されながらも写し取られていると考えられます。すなわち、5世紀代の大王墓に並べられていた埴輪群像を、間接的に知る手がかりとなるのです。その意味でも、地域史レベルでの評価にとどまらない成果が得られたといえるでしょう。

埴輪の接合等の整理作業は、引き続き行っていくしますので、進展にご期待ください。

文責：角南 辰馬（富田林市教育委員会文化財課）

図3

形象埴輪 参考図面

浮ヶ澤古墳の形象埴輪の元の姿を
考えるうえで、参考になる図面を
集めてみました。

1～5・7・10：縮尺1/8

6・12：縮尺任意

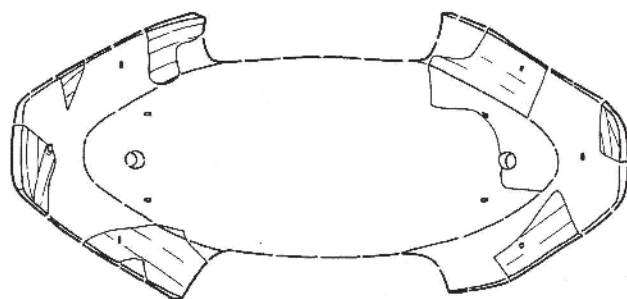
9・11・14：縮尺1/4

15：縮尺1/10

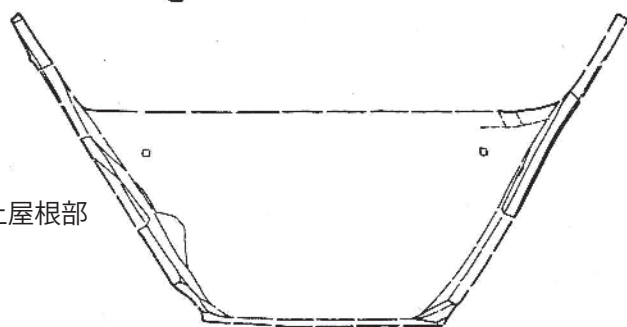
0 (S=1/4) 20cm

0 (S=1/8) 20cm

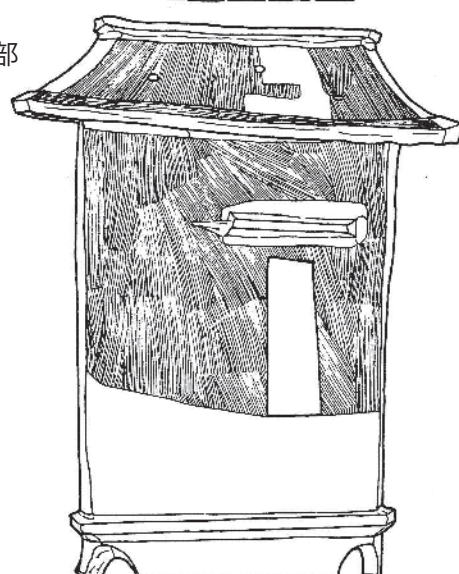
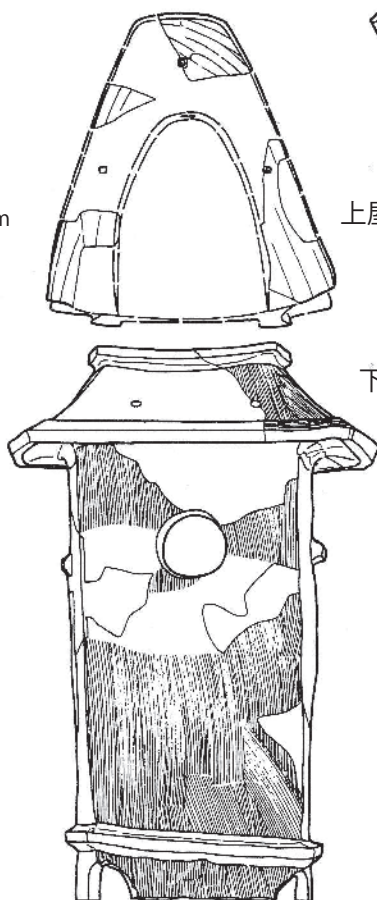
0 (S=1/10) 20cm



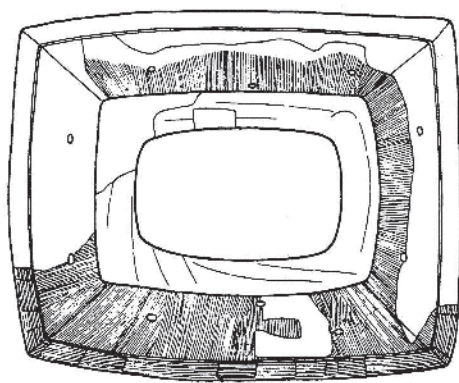
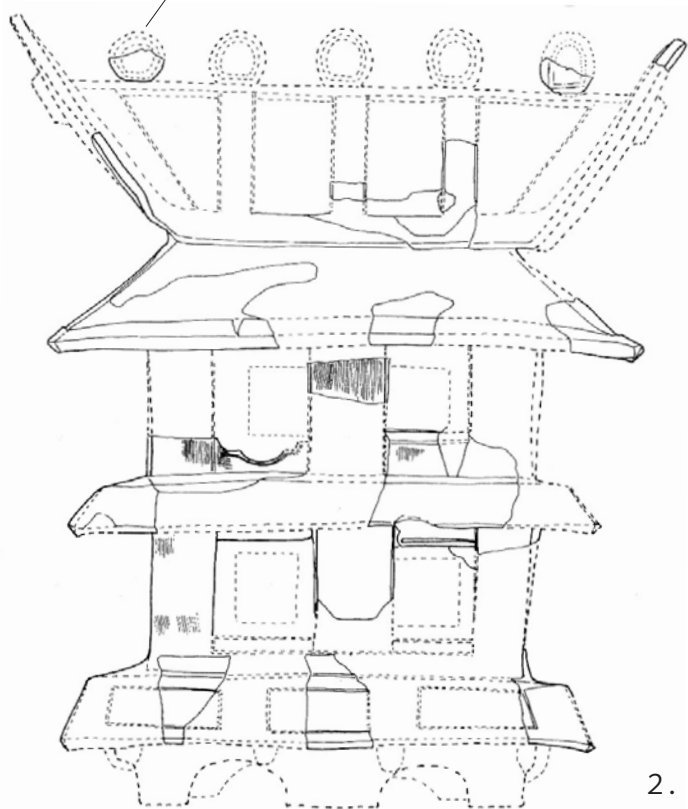
上屋根部



下屋根部

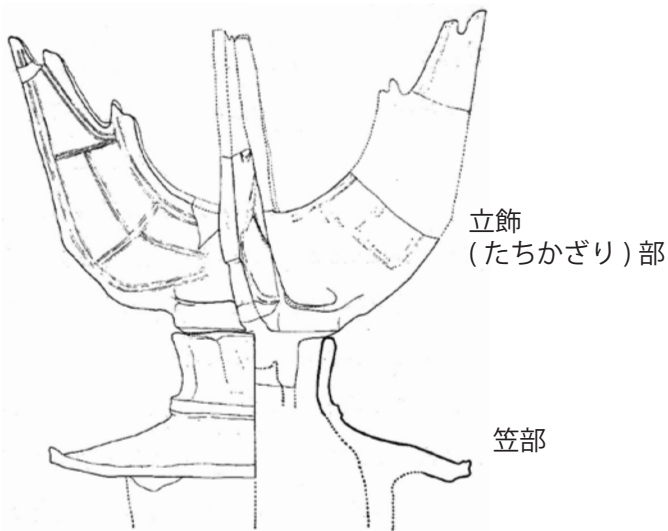


堅魚木(かつおぎ)

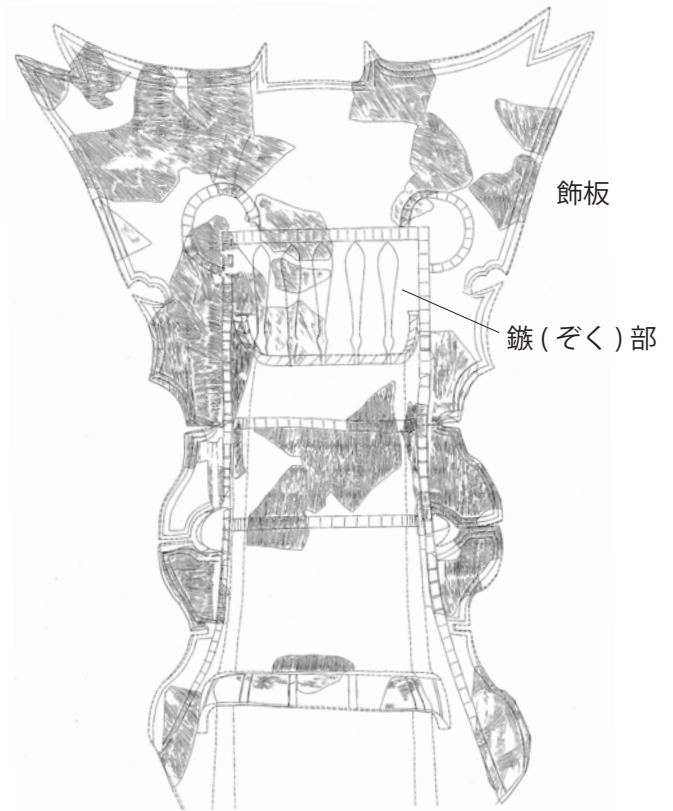


1. 家形埴輪 (高槻市・川西4号墳)

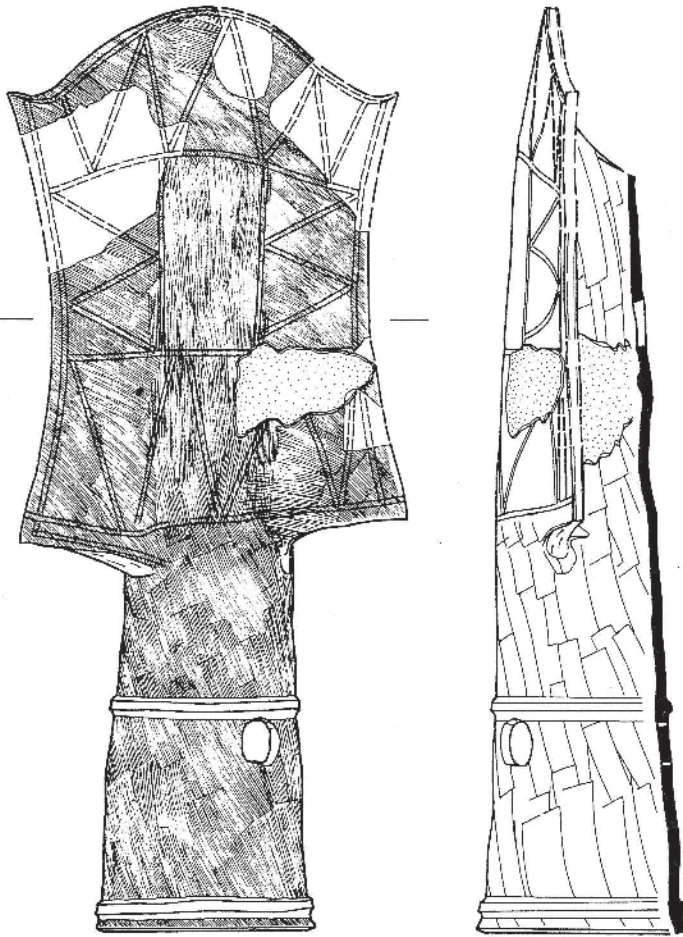
2. 家形埴輪 (松阪市・宝塚1号墳)



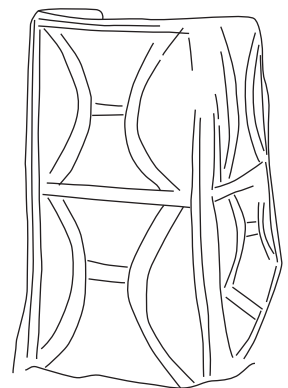
3. 蓋形埴輪 (和歌山市・井辺八幡山古墳)



4. 鞍形埴輪 (橿原市・四条7号墳)



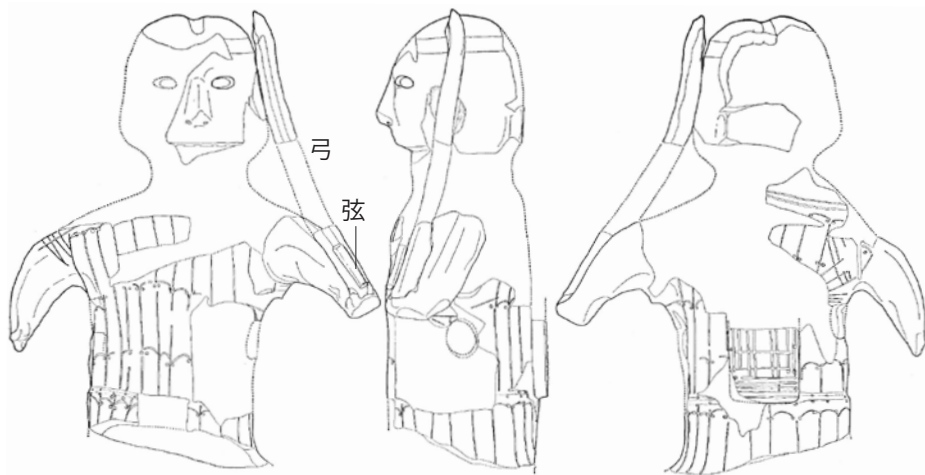
5. 盾形埴輪 (川西4号墳)



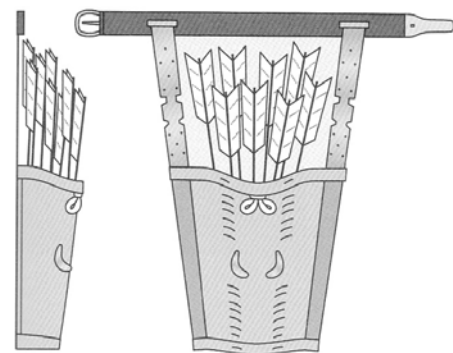
6. 高槻市・今城塚古墳の
家形埴輪にみられる
直弧文の線刻

<引用文献> ※図については一部改変を行っている。

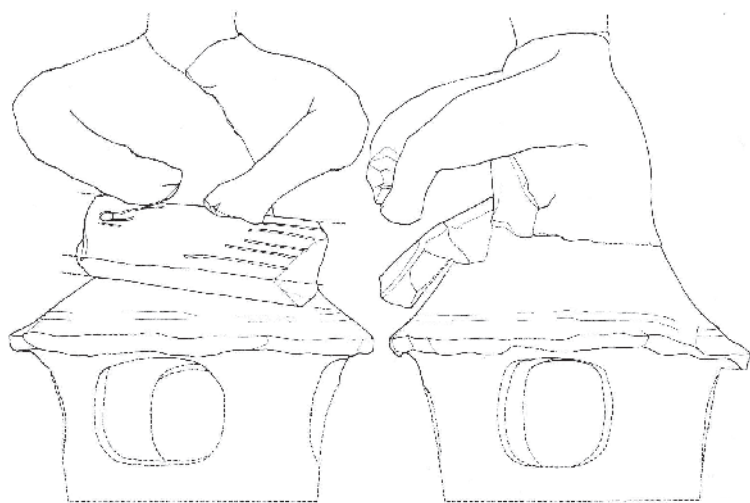
- 1・5. 高槻市教育委員会 1988『嶋上郡衙他関連遺跡発掘調査概要』12
2. 松坂市教育委員会 2005『史跡宝塚古墳』
- 3・7. 森浩一(編)1972『井辺八幡山古墳』同志社大学文学部文化学科内考古学研究室
4. 奈良県立橿原考古学研究所 2010『四条遺跡』II
6. 和歌山県立紀伊風土記の丘 2011『大王の埴輪 紀氏の埴輪—今城塚と岩橋千塚—』(写真トレース)
8. 丹野拓・米田文孝 2018『紀国造家の実像を探る 岩橋千塚古墳群』新泉社
9. 大阪府教育委員会 1987『陶邑』VI
- 10・15. 浜松市教育委員会 2012『郷ヶ平古墳群』
11. 村瀬陸・林弘幸 2019「近畿地方における琴弾形埴輪—史跡大安寺旧境内出土資料から—」『埴輪論叢』第9号 埴輪検討会
12. 高槻市立今城塚古代歴史館 2016『王権儀礼に奉仕する人々』
13. 若狭徹 2009『もっと知りたい埴輪の世界 古代社会からのメッセージ』東京美術
14. 羽曳野市教育委員会 1984『古市遺跡群』V



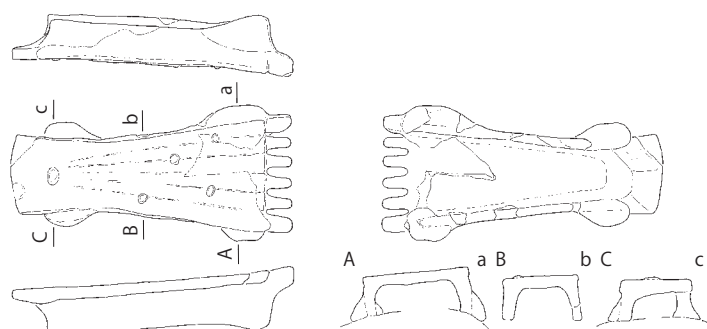
7. 弓をもち靫を背負う武人の埴輪 (井辺八幡山古墳)



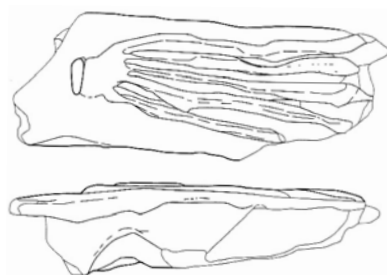
8. 実物の胡縁の模式図



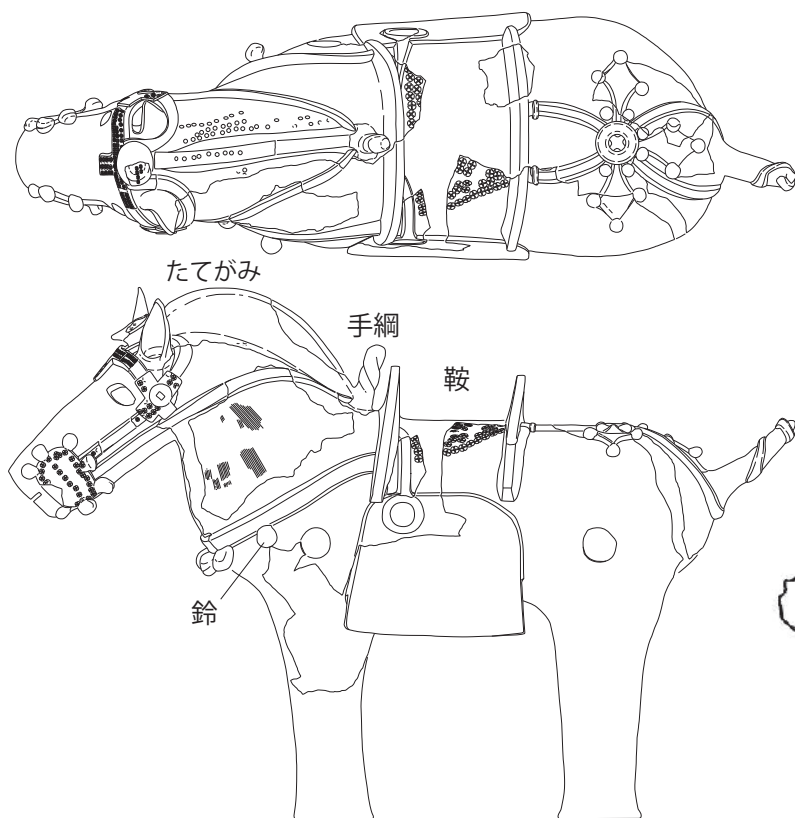
9. 弓を弾く人物埴輪 (堺市・野々井古墳群)



10. 人物埴輪に付属する琴 (浜松市・郷ヶ平3号墳)



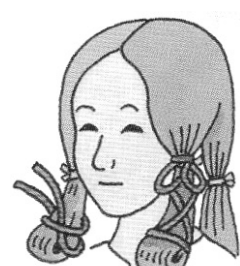
11. 人物埴輪に付属する琴 (天理市・寺山12号墳)



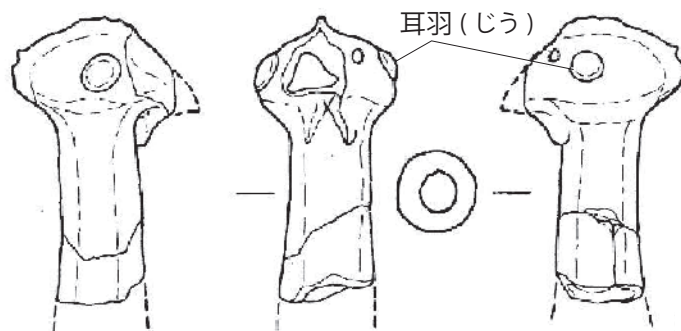
15. 馬形埴輪 (郷ヶ平3号墳)



12. 坏を捧げ持つ巫女の埴輪 (今城塚古墳)



13. 美豆良の模式図



14. 鶏形埴輪 (羽曳野市・茶山遺跡)

学識者による公式コメント

「今回出土した形象埴輪は、今城塚古墳の形象埴輪樹立区を想起させるような、良好なセットである。同古墳以前の、畿内中枢の形象埴輪の構成をよく伝えるものとして貴重であり、当時の王陵の埴輪祭祀を映したものと考えられる。琴を弾く人物埴輪といった希少なものもあって、さらなる研究に期待したい。

浮ヶ澤古墳の被葬者は、古市の大王勢力を南河内で支えた人物であろう。」

高橋 克壽 氏（花園大学文学部教授）

「富田林市内でまとまった埴輪が出土したのは初めてであり、この地域の歴史を紐解くうえで重要な発見である。

さまざまな姿かたちの人物埴輪や動物埴輪を中心とする豊富な形象埴輪群像は、浮ヶ澤古墳の被葬者が地位の高い人物であったことを示し、地域を越えて王権との関係性をもった有力な人物像を想像させる。

今後、発掘調査報告書の刊行や展示公開等を通じて、市民の方々が地域の歴史をより深く理解する一助となることを期待する。」

和田 一之輔 氏（奈良文化財研究所 都城発掘調査部考古第一研究室長）